



【技術監修】植月 英貴 / トヨタホーム アフターサービス 担当DIYアドバイザー

エクステリアも定期的なお手入れが大切です

門扉や門柱、フェンス・格子などのアルミ製品は、サビにくい特徴がありますが、表面に付着した汚れを長期間放置すると腐食の原因になります。定期的なお手入れで美しい光沢を保ちましょう。



アルミが腐食(さび)する原因を知っていますか？

アルミが腐食する原因は、大気中に含まれるほこり、排気ガス、鉄などの金属粉や海塩などがあります。これらが表面に付着し長期間放置しておくと、雨水や湿気の影響で腐食していきます。

アルミ製品のお手入れは、仕上げの乾拭きがポイントです

アルミ製品の「しっかりお掃除」

●お手入れ方法は、汚れの内容により異なります。

汚れの内容	用意するもの	お手入れ方法
汚れが軽い場合	・柔らかい布 またはスポンジ	柔らかい布、スポンジで水拭きした後、乾拭きしてください。
汚れがややひどい場合	・中性洗剤 ・柔らかい布 またはスポンジ	中性洗剤を水で薄めた液で布またはスポンジをぬらし、アルミ部分を拭いてください。その後洗剤が残らないように水洗いして、仕上げに乾拭きしてください。
汚れがひどい場合	・中性洗剤 ・ナイロンたわし ・柔らかい布	中性洗剤を水で薄めた液でナイロンたわしをぬらし、アルミ部分を拭いてください(こすりすぎに注意)。その後洗剤が残らないように水洗いして、仕上げに乾拭きしてください。

お手入れの目安

半年ごとに。工業地帯や海岸部では状況に応じてお手入れの回数を増やしてください。



ご注意

- お使いになる洗剤等の裏面の注意事項は必ずお読みください。
- 強くこすると塗装を傷つけたり、塗膜がはがれてしまう恐れがありますのでご注意ください。
- 各メーカーの取扱説明書や使用上の注意書きを必ずお読みください。
- 布やスポンジなど柔らかいものを使用してください。
- 金属ブラシ、金ペラ、スチールウール、目の粗い紙ヤスリなどは使用しないでください。
- アルコール、ベンジン、アセトンなどの有機溶剤や石油類などは使用しないでください。
- 安全の為、定期的にボルト、ナット、ビスにゆるみがないか確認してご使用ください。
- 洗剤は中性洗剤を使い、酸性洗剤は避けるようにご注意ください。

わが家を
いつまでも快適に！

誌上メンテナンス講座 vol.15

バックナンバーは
OWNER'S WEBで!!

冬に覚えておきたいスマート・エアーズの上手な使い方

スマート・エアーズは冬の寒い時期、室外機を霜から守るための機能を備えています。その機能の説明と、快適にスマート・エアーズを使っていただくためのポイントを紹介します。



スマート・エアーズの「除霜運転」機能を知っていますか？

暖房運転中なのに暖かい風が出なかったり、運転が度々止まるのは「除霜運転」が働いているからです。冬場暖房運転をすると室外機に霜がつくことがあります。霜による悪い影響がでないように自動で霜を溶かす機能が「除霜運転」です。

「除霜運転」をしている時スマート・エアーズは下記のような状況になりますが、異常ではありません。

- ①霜を溶かすために暖房運転は一時的に停止、再び暖房運転に戻るまで10～15分かかります。
- ②リモコンの表示は「暖房」のままですが、室内に風は出てきません。再開直後は吹き出す風が少し冷たく感じられることがあります。
- ③外気温が低いほど次に「除霜運転」をするまでの間隔が短くなります。

定期的にエアークリナーのお手入れ、交換をしましょう

エアークリナーのお手入れ方法はオーナーズWEBへ！

エアークリナーの目詰まりは暖房効果を弱めます。2週間に1回はお手入れしてください。シーズンを通してしないと運転効率が低下し電気の無駄遣いにつながります。

お手入れ方法はコチラ→
[デジタル版オーナーズブック]



スマート・エアーズ専用エアークリナーは、「らいさぽ」で購入できます

エアークリナーの交換の目安は約2年です。
●必ず専用品をご使用ください。



らいさぽ
P19

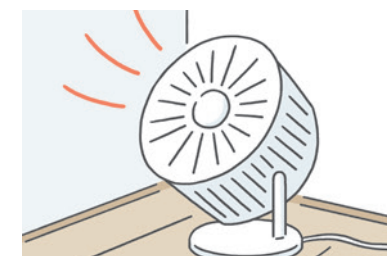
さらに快適に過ごすためのポイント

加湿器を使用する



暖房運転では、室内が乾燥気味になるので、加湿機能をご利用ください。加湿機能が無い場合はポータブル加湿器を置くことをおすすめします。

サーキュレーターや扇風機を併用する



暖かい空気は上に、冷気は下にたまるため、サーキュレーターや扇風機で空気を循環させるようにしましょう。お部屋の温度のムラをなくすることで運転効率が上がります。

室内機、室外機、吹出口の周りをふさがないようにする



室内機、室外機、吹出口周りに物を置いてふさがると暖房効果を弱め、電気のムダになります。特に、室外機に雪が付着したり、周りに積もったりすると給排気の妨げになり、暖房効率が下がります。室外機の周りの除雪をしましょう。

庭 植 え の 樹 木 や 草 木 の お 手 入 れ ― 剪 定 と 施 肥

剪定の目的

樹木などの植栽は放っておくと大きくなり、うっそうとしてくるので、剪定は冬と夏の年2回剪定するのが理想的です。それぞれの剪定内容を変化させることで、年間を通して美しい庭を保つことが可能です。

施肥の目的

植物に肥料を与え土を再び元気にするを「施肥(せひ)」といいます。樹木の種類や状態に合わせ適切な施肥を行いましょう。施肥は樹木をきれいで健康に保つために必要です。

剪定と施肥は、きれいな木を育てる第一歩です

剪定の方法について

剪定の道具

剪定バサミ、木バサミ、のこぎり、刈込みバサミの4つでほとんどの作業が可能です。

方法とコツ

剪定のコツは「上から下」「外側から内側」にハサミを入れていくことです。まず樹形を乱したり採光・通風の妨げになる不要な枝の整理をしましょう。次に全体を眺めて必要に応じて枝を切り詰めて樹形を整えましょう。

樹木別の切り方

中高木は、剪定した後の樹形をイメージして太い枝から切っていきます。細枝が込み入っている場合は、枝を間引きして風通しをよくしていきます。一方低木や生垣は、上部と側面の長くまっすぐ伸びた枝を切り、脇枝を伸ばして密に仕上げていきましょう。

〈忌み枝の種類〉



忌み枝(いみえだ)とは、樹木の形を損なう不要な枝のことです。樹形を崩すだけでなく、他の枝への日当たりや風通しが悪くなり、樹木の生長を妨げる原因となります。

〈剪定の種類〉

枝を切る位置

枝元から切りましょう。残しすぎると、腐りやすくなります。

外芽と内芽

必ず外芽を残すように剪定を。内芽を残すと、枝が不自然な形に伸びてしまいます。

ハサミを入れる位置

節の間ではなく、芽の上5〜10mmほどの位置で、芽の方向にそってやや斜めに切ります。

施肥の方法について

施肥の時期1〜2回に分けてが施肥の基本

植えた直後の樹木は細根が少ない為、施肥をすると根が傷み、樹木が弱ってしまうことがあります。1年間は施肥は避けましょう。2年目の冬から、春の活動期に向けて「寒肥(かんぴ)」をはじめます。また開花後や果樹の収穫後には栄養補強の為「お礼肥(おれいごえ)」をしましょう。

施肥の方法

中高木の場合は幹の直径3〜5倍離れたところに、深さ15cm、直径10cm程度の穴を掘り油かすや鶏糞など遅効性の肥料を入れて埋戻します。低木の場合は、木の根元に穴を掘り中高木と同様に肥料を入れて埋戻します。

施肥の3大要素

植物にとって窒素、リン酸、カリは生育のために必要な量が多い為、肥料の三大要素と呼ばれます。それぞれの肥料によって三大要素の配分は異なりますので、目的に応じて使いわけましょう。

植え付け後1年間は、肥料を与える必要はありません。

2年目の12月から翌年の3月にかけて「冬肥」をスタート。

一本立ちの樹木の場合は、輪状に穴を掘って施肥を。

低木は根元に、一度にやりすぎないようにしましょう。

三大要素のどれかが欠乏すると、さまざまな症状が出て、生育が悪くなります。

チッ素(N) 葉肥と呼ばれ、葉や茎などの生育を促進します。

リン酸(P) 実肥と呼ばれ、花や実の生長を助けます。

カリウム(K) 根肥と呼ばれ、丈夫な根や莖葉をつくります。

注意

- 樹木がある程度の大きさに育ったら、庭の広さに応じて、大きさを維持していくことも必要です。
- あまり大きく育ててほしくない木には肥料を与えすぎないようにしましょう。
- 施肥によって勢いよく育ってしまうと、自然な樹形を損なう場合があります。

オーナーズWEBのデジタル版「オーナーズブック・住まいのお手入れ編」で今回紹介していない外まわりのお手入れ方法もご覧いただけます。



庭 植 え の 樹 木 や 草 木 の お 手 入 れ ― 水 や り

植物は根から水分を吸収し、葉や幹(茎)からの蒸散作用によって水分を放出しています。樹木が正常な生育をしていくためには、吸収と蒸散のバランスが保てるよう、水やりをすることが必要です。

冬場の水やりのポイントは3つです

ポイント① 水やりのタイミング

水やりは、地面が乾いていたら行いましょう

水のやり過ぎは根腐れの原因になりますので、回数は少なく、一度にたっぷりと水やりをするように注意しましょう。根元の地面を触って地面が乾いていたら水やりするようにしましょう。



土に指を入れて、中指の第二関節まで湿って入れればOK。

ポイント② 水やりの量と方法

根付いてからと植え付け後では水やりの量が違います。

2年ほどで樹木が根付いた後は、晴天が続いたとき以外は水やりの必要はありません。植え付け直後の樹木は、冬場なら1週間に2回ほどで十分です。それ以外の季節では2カ月間は1日2回、たっぷり水やりをします。夏場は水道蛇口を全開にして1分程放水し続けてください。根付いた後でも夏場で日照りが続くようなときは、1日に2回(朝・夕方)の水やりが必要です。



中高木は、根元のくぼみ(水鉢)に水がたまるくらいたっぷりと。

葉や幹にも水分を与える

水分は根からだけではなく葉や幹からも吸収されますので湿らす程度に水分を与えるようにしましょう。



ポイント③ 水やりに適した時間

水やりは朝が基本、ただし季節によって時間帯や回数を変える必要があります。

冬場

日中暖かくなってから行ってください。夕方に水やりをすると夜の冷え込みで水が凍り根を傷つけてしまいます。

冬場:日中、午前10時から午後2時までに。



夏場

朝の涼しいうちと、夕方以降の2回行うのが理想的です。日中の水やりは根腐れの原因になるので避けましょう。また日差しが強いときに水をかけると、水がレンズの役割をし葉焼けの原因になりますので水をかけるのは禁物です。

夏場:朝方は午前9時まで、夕方は午後5時以降に。



水滴がレンズ状に。

トラブル防止はプロにおまかせ!

お庭のお手入れや虫害でお困りの方は、専用サービス(有料)でプロにお任せもできます。

らいさぽサービスメニュー(例) **お見積金額(税抜より5%OFF)**

- 樹木の年間お手入れサービス ● ハチ駆除サービス ● 戸建の虫さん侵入お断りサービス

サービスの詳細は、オーナーズWEB → らいさぽショッピング内のサービスメニューをご覧ください ▶

